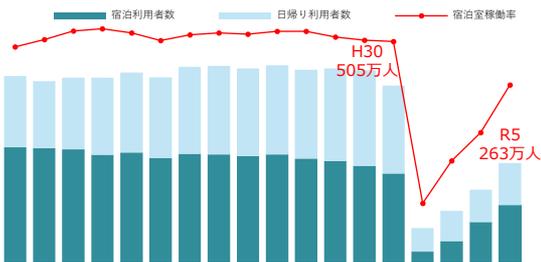


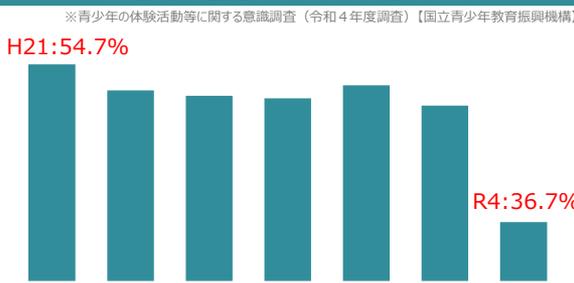
前提となる現状

- 国立青少年教育施設の**利用者数の減少**
- 学校以外の公的機関や民間団体等が行う自然体験に関する**行事に参加した子供の割合の減少**
- 利用団体の**ニーズの多様化**
- **体験格差**や**日常的な体験の場の減少**
- **運営費交付金の減少**
- **繰越欠損金**の拡大
- 施設の**老朽化**
- 施設の老朽化に伴う**メンテナンスコスト増**
- インフラマネジメント**人材の確保難**

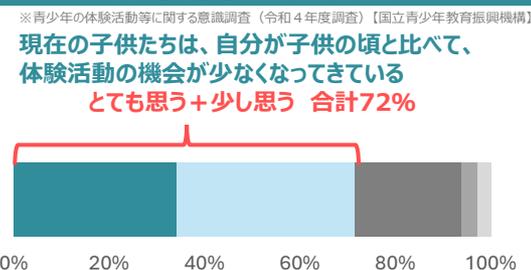
青少年教育振興機構利用者数推移



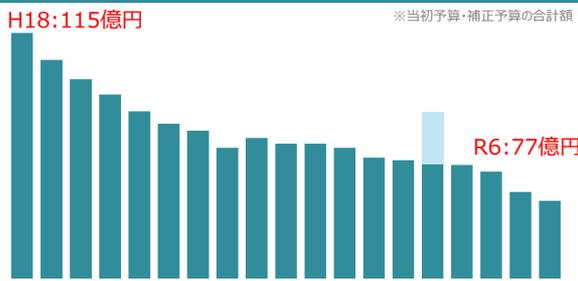
自然体験の行事に参加した子供の割合



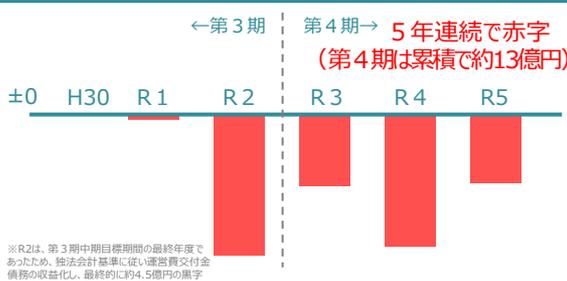
青少年の体験活動意識調査



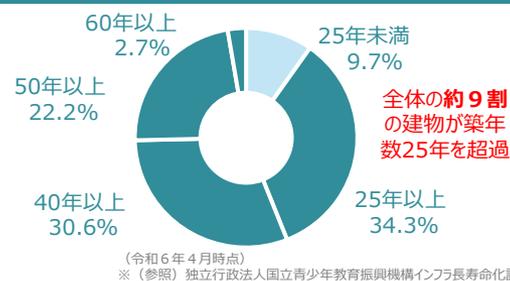
運営費交付金推移



繰越欠損金の推移



国立青少年教育施設の老朽化



本検討会における論点案（たたき台）

I 教育事業・研修支援事業の在り方について

課題

- 国立施設の必要性の再確認
- ナショナルセンターとしての他の関係機関への波及
- 社会課題にどのような貢献ができるか（教師の働き方改革、青少年体験活動の減少等）
- 教育プログラムの受益者が青少年であることでのコスト負担の在り様

論点 I - 1 教育プログラムの内容 （地方教育施設が主催する教育事業）

- 国立の青少年教育施設として実施すべき教育プログラムとは何なのか（国立でしかやらないこと。国立でしかできないこと など）
- 教育事業の実施に当たって、社会課題や利用者のニーズを把握するための工夫は十分になされているか
- 多様な体験活動の機会と場を提供する上で、これまでにない形態の取組は考えられないか（近隣の青少年施設を場とした体験活動の提供／出張型体験プログラム／放課後等の日常的な体験活動提供 等）

論点 I - 2 研修支援事業の在り方 （地方教育施設での研修への指導及び助言）

- 学校利用に際しての教員の負担軽減策を講じるために必要なことはどういったものか
- 多様な研修利用者に対応したきめ細かな教育プログラムの提供に向けた工夫はなされているか（研修利用者の属性ごとに必要な指導・助言が適切になされているか）

<議論の視点となるキーワード案>

青少年教育のナショナルセンター、青少年教育研究センター、利用者ニーズの分析、教員負担の軽減、地域全体の青少年教育活性化 など

本検討会における論点案（たたき台）

I 教育事業・研修支援事業の在り方について（続き）

論点 I-3 都市型青少年施設の役割

- 立地条件に恵まれており、これまで青少年機構全体の収益の中核的機能を有していたオリセンの今後の役割についてどのように考えるか

<議論の視点となるキーワード案>

都市型青少年教育施設の役割、法人全体の収益性向上 など

論点 I-4 指導者養成機能の在り方

- 青少年機構の指導者の資質向上のみならず、青少年教育のナショナルセンターとして公立青少年施設や民間青少年教育団体などの青少年教育指導者の資質向上に対して果たすべき役割をどのように考えるか

<議論の視点となるキーワード案>

指導者研修、指導者の資質向上、地域全体の教育力向上 など

論点 I-5 地方教育施設・オリセンの課題を踏まえた取組の在り方

- 教育事業・研修支援事業・一般利用などのターゲットの拡大をどのように考えるか
- 持続可能な青少年教育事業を実施するに当たって、どのような取組から収益性を確保すべきか
- 多様なニーズや新たな取組を実施するに当たって、青少年機構本部と地方教育施設との関係性をどのように考えるか

<議論の視点となるキーワード案>

利用者属性の拡大、家族・個人利用、企業利用、日本型学習プログラムの提供、国際交流、高収益性事業、オリセンの収益性促進、コスト計算、法人全体での教育事業の企画立案機能の向上 など

本検討会における論点案（たたき台）

Ⅱ 国立青少年教育施設の維持・管理の在り方について

課 題

- 施設の老朽化（経年劣化）によるインフラメンテナンスコストの増加
- インフラメンテナンスに要する人材・予算の不足
- 施設維持管理業務の増大による職員の多忙化（管理業務の合理化・効率化の必要性）
- 閑散期の宿泊稼働率の低下による逸失利益の発生

論点Ⅱ-1 インフラマネジメントの在り方

- 老朽化した施設をどのように維持していくか
- 維持管理に要する人的リソースをどのように確保するか
- 必要なインフラマネジメントコストをどのように確保するか
- インフラのメンテナンスサイクルや今後必要となるインフラマネジメントを踏まえ、現状必要なコストが何であり、将来的なコスト低減に向けて今から行うべきことは何か

論点Ⅱ-2 一般的な管理運営業務の効率化

- 青少年機構職員が自ら実施しなければならない業務は何なのか
- 管理運営業務の効率化をどのように図るか（内部実施とアウトソーシングの切り分け）
- 閑散期の施設の活用策の検討をどのように図るか
- 施設の適正規模の検討をどのように考えるか
- 管理運営に要するコストをどのように低減させるか

<議論の視点となるキーワード案>

事務手続きの電子化、管理業務のアプリ化、民間活力の導入（PPP・PFI）、コスト計算、管理コストの低減、規模の適正化、合理化・効率化、予防保全、包括民間委託 など

検討会第6回の論点と検討の視点（案）

論点Ⅱ-2 一般的な管理運営業務の効率化

- 青少年機構職員が自ら実施しなければならない業務は何なのか
- 管理運営業務の効率化をどのように図るか（内部実施とアウトソーシングの切り分け）
- 閑散期の施設の活用策の検討をどのように図るか
- 施設の適正規模の検討をどのように考えるか
- 管理運営に要するコストをどのように低減させるか

（検討の視点）

- 国立施設が実施すべき業務や、アウトソーシングできる業務がある中で、有限である資源（人材・資金・物・情報・時間・ノウハウなど）を、①どういった目的を、②どの程度達成するために、③どの程度の資源を、④どういった取組・どういった施設に充当するか、という全体的な「戦略」をどのように考えるか。
 - ※ 国立施設として取り組むべきと考えられる取組をどの施設で実施するか（先導的モデルの開発普及／指導者養成事業／全国的な青少年教育の機運向上・質向上）
 - ※ 体験活動の提供機関として、国立施設の魅力を活用した教育事業の提供を、どの施設でどの程度実施するか。民間活力の活用（人材の活用含む）をどのように考えるか。（学校・青少年団体の利用／企業研修への活用／アウトリーチ型事業／観光資源等も活用した体験型学習の利用／閑散期の利用者増）
 - ※ 定型的業務の効率化等による教育的業務への資源の移し替えをどのように実現するか。 など
- 青少年機構のプロパー職員がノウハウとして保有していない（又は今後保有する際に極端にコストを要する）業務類型はどういったものか。
 - ※ 施設維持管理などの業務に係る民間活力の活用により、どのように適正な運営や効率化を図るか。
- 改善に向けて一時的なコストがかかるとしてもなお、中長期的に見て効率化が図られる業務はないか（本部による伴走支援・業務の統一化・システム化・DX化など）

（関連する全体的な検討の視点）

- 国立施設に必要な機能や、全国的な青少年教育の先導的な役割を踏まえて、国立だからできる取組を実施する施設など、28施設の機能別分化（例：モデル的事業研究施設・指導者養成施設・アウトリーチ型教育施設など）をどのように促進するか。
- 目に見える業務効率化の実施のみならず、職員エンゲージメントの向上による生産性の向上や業績の向上など、組織風土改革をどう図るか。